

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(109)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(109)—

1. 始めに

前報(108)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は器楽アンサンブル曲です。

Westminster G-10597

モーツアルト ディヴェルティメント N.3 E Flat Major

ディヴェルティメント N.4 B Flat Major

ディヴェルティメント N.9 E Flat Major

ディヴェルティメント N.16 E Flat Major

Vienna Philharmonic Wind Group

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Westminster 盤ということで、Columba、正相、第4時定数 Low で聴いていきました。

ウイーンフィルの木管グループアンサンブルによる木管編成のディヴェルティメントの演奏です。モノラル盤ながら、木管の浸透性のあるクリアな音で、いずれの曲もディヴェルティメントらしい、明るく快活な表情が活きています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/